

長沼で考えよう

未来に繋ぐ 災害の記憶



「災害文化」を考える集い

令和8年 **11月29日（日）**

13：00～16：30　（受付 12：30）

参加費　無料

会場

長沼住民交流ハウス
長沼支所（長野市穂保 941）隣

地域で育てる、命を守る「災害文化」

被災された方や災害支援に携わる方、地域・教育関係者、学生、研究者などが集い、災害の記憶や地域の知恵を受け継ぐ「災害文化」について考えます。
防災に関心のある方、長沼や地域のことをもっと知りたい方など、どなたでもご参加いただけます。

第一部　災害を深く知ると、見えてくること



1. 地名から紐解く歴史と文化（60分）

講師：栗林　秀夫さん　元中学校社会科教諭。長野市立篠ノ井東中学校長、長野市教育センター所長を経て、NPO法人「夢空間松代のまちと心を育てる会」副理事長。地域の歴史や文化を伝える講座や活動に取り組む。

寛保2年（1742）の「戌の満水」や令和元年（2019）「台風19号災害」など、千曲川流域では洪水災害がたびたび繰り返されてきた。そのため流域の地名には「災害」にちなんだ名前が多い。
そこで「災害地名」に隠された地域の歴史や文化を紐解きながら、改めて地名の大切さを学びます。

2. 長沼の災害に学ぶ（60分）

語り：前島　勝之さん　令和元年台風19号災害で、赤沼にあるご実家で両親と共に被災。災害直後の出来事やご家族との思いを、今も記録し続けています。

災害後、町は一見すると日常に戻ったように見えます。その裏では被災された方が言葉にできない思いを抱えながら生活しています。
令和元年台風19号災害で被災された前島さんの体験や思いを伺います。

第二部　「災害文化」みんなで考えるワークショップ（90分）

災害への思い、経験や備えを地域で大切に受け継いでいくために私たちに何ができるかを一緒に考えます。

参加無料

同日開催！午前の部

晚秋のりんごの里を巡る

信州長沼サイクリングツアー

11月29日　9：30～11：30

りんご発祥の地・信州長沼をレンタル自転車でゆっくり巡り、晩秋のりんご畑の風景と地域の歴史に触れるツアーです。地域の神社も巡りながら実りの余韻が残る信州長沼で、ゆったりと晩秋を楽しみませんか





【主催】たてもの修復ネットワーク／（一社）しなの長沼お屋敷保存会
【協力】長野県災害時支援ネットワーク（N-NET）
【支援】信州アーツカウンシル（一般財団法人長野県文化振興事業団）

お問合せ／お申込み

026-296-3311

n.saigaibunka.k@gmail.com

お申込みフォーム

しなの長沼・お屋敷保存会 災害文化研究部（長野市津野 837）

長沼スマート

未来に繋ぐ 災害の記憶

**災害の記憶や地域の知恵を次の世代へつなぎ、
これからの備えに生かしていくこと。それが「災害文化」**

今こそ伝えたい「災害文化」







近年、気候変動の影響もあり自然災害が多発しています。「いつ」「どこで」災害が起こるかわかりません。私たちは日々の暮らしの中で、常に災害と隣り合わせに生きています。

予期せぬ災害に備え、被災したときに適切に対処するためには「知恵」が必要です。科学や技術によって災害を防ぎ、被害を抑える「災害文明」が進歩する一方で、災害に向き合う意識や行動が十分に育まれていない面も指摘されています。たとえば、洪水の危険が迫っていても、避難行動に結びつかないことがあります。その背景には、地域コミュニティの衰退や、先人の「知恵」が十分に受け継がれていないことも考えられます。

こうしたなか、学校や地域では防災教育が活発に行われ、避難訓練や避難所の設営訓練も実施されています。被災地や被災者を支援する活動も広がっています。また、災害の痕跡や言い伝えを大切にし、過去から学ぶ姿勢にも目が向けられ、マイタイムラインの作成など、災害から身を守る知恵を身につける取り組みも進んでいます。

こうした取り組みが「災害文化」として育まれ、日々の暮らしに根づいていけば、減災につながると考えられます。様々な取り組みを「災害文化」として捉え、地域で受け継ぎ、社会全体に広がる事を願っています。

会場案内

長沼住民交流ハウス
長沼支所向い（長野市大字穂保 940-1）









【主催】 たてもの修復ネットワーク／（一社）しなの長沼お屋敷保存会
【協力】 長野県災害時支援ネットワーク（N-NET）
【支援】 信州アーツカウンシル

お問合せ／お申込み

お申込みフォーム

026-296-3311
n.saigaibunka.k@gmail.com
しなの長沼・お屋敷保存会 災害文化研究部（長野市津野 837）